

## “ご家族への手紙”の 限界を知った今

うみべの家では入居者様の普段の様子を、写真入りのお手紙という形で定期的にご家族様にお伝えしてきました。行事に参加された際の表情が伝わるような写真や、普段の生活のご様子などを、担当している介護職員が自ら書いた文章を添えてご家族様にお送りしてきました。面会を再開してからの入居者様・ご家族様の様子を見て痛感しているのが、ご家族への手紙でお伝えするだけでは不十分だったということです。

直接対面での面会が出来ていれば、入居者様の嬉しい顔、そして言葉の端々に気持ちの通い合いが生まれ、離れて生活していながらもご家族様との繋がりを感じられることが、入居者様の活力になると感じました。感染対策のために必要だったとは言え、面会制限（≡ご家族との繋がりを制限）したことが、入居者様の心身に与えた影響は大きかったと省みています。



ご家族への手紙

うみべの家職員にとっても、ご家族様が施設内に入られない状況に慣れてしまっていた部分があると思います。ご家族様が自由に面会できることを、“あるべき日常生活を取り戻すこと”として受けとめ、地域社会にも開かれた施設となるよう努めていきたいと思ひます。